



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2023年04月17日 第1114号「週刊五十嵐レポート」

三原ノート

WBC(ワールドベースボールクラシック)で14年ぶり世界一を奪還した監督栗山英樹氏の「栗山ノート」(光文社)が再び売れている。栗山氏が監督として土台になっていたのが、故三原脩氏(日本一4回)が残したノートである(BSNHK「スポーツ×ヒューマン」より)。

「野球のすべてを一定の型にはめる事はできない。すなわち、あらゆる状況にあてはまる型というものはない。基本型はあるが、これがすべてではない。基本型を状況に応じて変化させて使いこなしていく。野球は絶えず変化するゲームである」。「勝負は実力5、運3、調子2の割合である」(栗山氏談、「監督の教科書はないけど、これが原則ではないか」)。

「勝負は不思議と得手と苦手がある。自分は何とも思わなくても、相手がそう思い込む所に利点がある。また、不利点がある」。

中西太氏(元プロ野球選手・三原氏の義理息子・栗山氏にノートを提供)、「長所をいかに見つけ出すか一番難しい。人は十人十色、野球でも何でも長所を引き出して、長所をつなぎ合わせてやらなきゃいかん」。

困難に直面した選手にどう向き合うか。「選手の性格は十人十色。強い言葉や行動によって成長していくタイプの者がいるし、やわらかいおだてによって成長していく選手もいる。監督コーチはこれを見抜かねばならない」。

栗山監督は、WBCの準決勝、決勝で村上選手を4番から5番にした。人は感じ方が違うので、その人に合わせたやり方をしないといけない。しかし、村上選手への答えが見つからない。それで丁寧に接することにした。監督室で直接話したり、電話したり、LINEでメッセージを入れたりした。

準決勝の9回、ランナー1塁2塁でバッター村上。監督は一番高い確率を選択する。村上にバンドはない。代打のバンドはあの場面、非常に難しい(控えの選手に準備はさせたが)。村上に打たせるのが一番確率が高いと判断。

三原ノートでは、「三原の用兵に奇策が多いと言われる。しかし私から見ればそれは奇策ではない。私自身のセオリーである」(誰も気づいていない所まで私は気づいている)。先を見る洞察力。ビジネスでも通じる。

ちょっと
気になる出来事

4月12日付日経新聞、「地銀20行超 初任給上げ」という記事。

地方銀行で新入行員の初任給を引き上げる動きが広がっている。かつて地銀は安定した就職先として人気があったが、最近は構造不況業種として敬遠されることも多い。初任給の引き上げで優秀な人材の獲得につなげる。

4月10日付朝日新聞、「中国金融界 給与削減や摘発相次ぐ」という記事。

中国は金融業界に対し、欧米のようなエリート主義や拝金主義をまねしていると批判し、圧力を強めている。高給を得る金融業界は「共同富裕」と相反する存在に映るようだ。22年の社員の平均年収は前年から20万円(約380万円)下がった。元々は100万円弱(1900万円)で平均年収を2割削減したことになる。

3月21日付日経新聞、「日中の給与差拡大」。ビッグデータなどを分析する「データサイエンティスト」は中国の年収が2350万円、日本は1400万円。中国の方が950万円高い。「AIグローバルソリューションアーキテクト」は中国2350万円、日本に比べ550万円高い。高度な人材の昇給では日本はアジアの中では大きく見劣りすると書かれている。

人材の地殻変動が起きている。



一口メモ
知識

来るべき日のために

時に及ばんことを欲するなり。

機が熟し、
時が満ちた時に過不足なく相応の実力を身に付けていることを目指し、
日々邁進する。

一日一日の積み重ねが、来るべき時の成功を約束するのである。

「易经一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

